

積み荷の 下敷き、死亡

作業前は、『事前打ち合わせ』と、
周囲の安全確認、『逃げ場』の確保

「吊り下」には、絶対、絶対……入らないこと
『逃げ場』の確保

ワイヤー、フック、シャックルの安全点検

積み荷の下敷き、作業員が死亡 別の作業員も大けが ワイヤーが外れたか、切れたか

2022年7月14日 13時20分

13日午後6時ごろ、愛知県のふ頭でコンテナ船の積み荷が落下し、作業員の男性（52）が下敷きになって、外傷性ショックで死亡しました。

海保によると、男性を含め11人が船上から「シャーシ」と呼ばれるトラックの荷台フレーム2台（計約16.2トン）をコンテナに載せ、クレーンで地上にワイヤで下ろす作業をしていた。

その際、コンテナの両側を固定していた4本のワイヤのうち2本が外れるか切れるかし、積み荷が落下したとみられる。

事故では別の男性作業員（34）も巻き込まれ、脾臓と左腎臓の摘出手術を受けるなどの大けがを負った。